

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770600090		
法人名	社会福祉法人 志度玉浦園		
事業所名	グループホーム志度玉浦園		
所在地	香川県さぬき市志度1610番地1		
自己評価作成日	平成28年6月20日	評価結果市町受理日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/37/">http://www.kaigokensaku.jp/37/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成28年8月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロアが広く開放感があり、ゆったりとした生活を送っていただける。その広さを活用して歩行運動を毎日実施している。立地が高台で景色も良く、四季を感じながら穏やかに過ごせる環境である。外出支援では、野外活動時にご家族と共に外食を楽しんだり、季節行事を取り入れ楽しんでいただけるよう工夫を凝らしている。認知症ケアにも力を入れ、毎月の職員研修にも“認知症ケアに関する研修”を取り入れ、高齢者の尊厳を回復し、一人ひとりに合った援助を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は高台にありテラスからは屋島や八栗、市内が一望でき見晴らしがよい。フロアや廊下は広くゆったりとしており、全体的に開放感がある。管理者をはじめ、職員全員で常に問題意識を持って、新しい課題や問題点を前向きに捉え、積極的に改善していこうとする姿勢がうかがえる。また、職員間の連携も良い。各職員は事業所の理念を具体化した自己目標を掲げ、自己・他者評価しながら、利用者本位のサービスの向上に努めており、利用者の表情も穏やかで落ち着いた雰囲気を感じられる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念に基づき入所者に寄り添ったケアが、実現できるよう支援している。また、理念に沿った職員目標を掲げ実践に繋げている。	事業所の理念と理念をより具体化した標語を、各コーナーに掲示している。カンファレンス時には理念を唱和して、理念の意義を再確認し共有している。年度当初に、各職員は自己目標を公表し、中間・年度末に達成度を報告するなど、理念を実践につなげる取り組みを行い、サービス向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の件数が少ないうえに世帯が若いので、昼間は人が少なく、日常的な交流は困難である。	事業所の立地場所は近隣との交流が難しい状況であるが、市内のボランティアや保育所の園児等の訪問、学生実習を受け入れるなどの交流を図っている。また、自治会の賛助会員となり、総会や夏祭り等の地域の行事の参加を計画しており、徐々に自治会や地域との交流を拡大しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症に関する講座を開催したり、その場で疑問点について話し合い、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状・活動状況等報告を行い、率直な意見をいただいている。意見を活かしたサービスの向上にも取り組んでいる。例えば、野外活動の行き先など案をいただき計画に入れている。	運営推進会議は自治会・老人会の会長、民生委員、家族・利用者の代表、行政職員等で構成されており、報告事項だけでなく、課題に沿った協議を行い、意見や提案事項をサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただきながら、事業所の取組みや実情を伝え、協力関係を築いている。	運営推進会議などで情報の共有を図るとともに、必要に応じて関係部署との連絡調整を行い、協力関係の構築を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての職員研修を行い、全職員は理解しており、身体拘束はないのが現状である。	職員は毎月の研修会を通して、身体拘束に関する理解を深めている。身体拘束の可能性がある場合は、身体拘束廃止委員会やカンファレンス時に支援の方法を検討しており、ここ数年は身体拘束は行っていない。外部からの不審者や猪の侵入等の新たな課題に関しては、関係機関と相談しながら、安全対策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について職員研修を行い、全職員は理解しており虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修において、理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき十分な説明を行っている。改定の際にも疑問点を尋ね、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見反映制度を実施し、介護意見申出書により意見や要望を聴くよう努めている。また、面会時にも意見を聴けるよう配慮している。	介護意見申出書を契約時や定期的に送付したり、面会時や常日頃の業務等を通じて意見を表出できる機会を設けている。提案事項は内容別に分けて検討し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営委員会や管理職会議、職員会議の中で、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	各種会議や個別面談時に意見を聞く機会を設けており、職員は意見を述べやすい職場環境作りに努めている。主に、利用者本位のサービスに関する意見が多く、業務改善に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長年にわたる勤務者にはリフレッシュ休暇が取れるよう配慮し、職員一人ひとりの勤務状況や努力など把握し、働きやすい環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップにも繋がるよう支援している。資格取得にも研修会を開くなど職員の向上心を大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に一度、計画作成担当者が代表し同業者との交流を図っている。交流会での情報はサービスの質の向上に役立てたり、ケアプランにも反映させている。また、行事には他施設の入所者にも参加頂いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行い、ご本人の思いや不安等を傾聴し、話し合いながら、安心して事業所を利用できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の中で、ご家族の苦労や不安、思いなどを傾聴し、ご家族が納得し信頼して事業所を利用して頂けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査を実施した結果に基づき対応しており、ご本人やご家族のニーズ把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事をしたり、世間話をしながら家庭的な雰囲気作りを心がけている。また、人生の先輩として話を聴いたりアドバイスをいただき、信頼関係を築いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「グループホーム便り」で近況や行事予定などを報告し、家族間でのコミュニケーションに役立ててもらっている。面会時にも情報を共有しながら信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスにも出かけ、馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。面会時には次の面会に繋がるような声掛けを心がけている。	来訪者には継続的な訪問の依頼している。馴染みの方がおられる法人内のデイサービスに出かけたり、年賀状や手紙の送付などの支援を行い、家族の協力を得ながら、馴染みの場所の外出などにより関係性が維持できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の関係性を把握した上でトラブルに発展しないよう支援している。また、入所者同士が関わりあえるような「玉入れ」「ジェンガ」などのレクリエーションにも取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても情報を収集し、退所後の相談に応じたり支援に努めている。特別養護老人ホームへの入所後も、状況把握し関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査において生活歴や日常生活の状況を把握し、ご家族を含めて希望・意向の把握に努めている。また、コミュニケーションを図りながら、ご本人のニーズ把握にも努めている。本人の希望をサービス内容に取り入れている。	日常業務の中で、利用者から意見や希望を聞いたり、利用者の表情や行動から希望や意向の把握に努めている。また、生活歴などの各種記録や家族の意見等からも利用者の意向や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で入所者の話を傾聴し、生活歴や馴染みの暮らし方等、情報を得る努力をしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りを密にし、一人ひとりの現状をチーム全体で把握している。状態変化時にはカンファレンスを行い、全職員に申し送っている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議においてカンファレンスを開き、チーム全体で話し合う機会を設けている。状態変化時にはその都度話し合い、家族にも意見を聴いたうえで、介護計画にも活かしている。	介護計画は、職員や主治医、利用者、家族等の関係者からの意見を反映しながら、現実 に即した計画を作成している。また、利用者の状態により、臨機応変に見直しを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子とケアの実践は介護記録に記入し、申し送りにおいて情報を共有しながら、後の実践や介護計画に活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに対して気づく力を養い、早期対応に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア訪問があったり法人全体のボランティア訪問にも参加している。パンの移動販売では、ご本人が選べるよう支援している。買い物の要望があれば、付き添う買い物支援も行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人やご家族の希望を取り入れている。受診時には受診報告書に状態を記入し、診察に役立てて頂き、診察内容についても職員全体が把握できるよう申し送り、介護に反映できるよう支援している。	利用者や家族の意向を尊重し、希望する医療機関での受診を支援している。「受診報告書」の活用により、医療機関・家族・事業所の3者が受診情報を正確に共有し、適切な受診が図れるよう努めている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状変化があれば事業所の看護師に相談し、必要があれば受診を実施している。「主治医・看護師への連絡基準」は看護師と共に話し合いながら作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の協力を得て情報交換や相談に努め、入院生活や退院がスムーズになるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針は説明し理解を得ている。その都度入所者の状態を十分に把握した上で、入所者、ご家族の意向を考慮しながら、事業所のできることを十分に説明し、話し合っている。	契約時に、重度化や終末期について事業所としての対応を説明するとともに、利用者の状態により変化していく家族の要望に応えるように努めている。今後、変動していく終末期の考え方に事業所としてどう取り組んで行くべきかを検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には職員が早期対応できるよう職員会議等でも研修を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり、法人全体の避難訓練にも参加したり、事業所独自の避難訓練も実施している。地域の人々との協力体制は実施に向けて検討中である。	災害別のマニュアルを作成し、備蓄している。2年毎に災害対策委員が交代し多くの職員が担当することで、災害に関する職員の意識は高いと感じられる。災害訓練実施後の反省点や次回に向けての課題も文書化され、次のステップに繋げている。また、ハザードマップを参考に事業所の安全対策や福祉避難所としての役割等の課題を明確にし、行政機関や地区組織と連携を図りながら取り組んでいる。	現在、事業所や地域を含めた災害対策に関する課題や問題点を明確にし、ながら、事業所としての役割を検討しているが、今後も引き続き、実現可能な方策の検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライドを傷つけないような言葉かけや対応を心がけたり、コミュニケーションを図っている。	理念を具体化した標語「言葉づかい・笑顔」をモットーに、笑顔で接すれば利用者から笑顔が返ってくることを大切に、利用者の人格やプライバシーを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日着る衣類の選択をしていただいたり、テレビのチャンネルなど思いや希望を表したり自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は散歩に行こうか。」などと言われる本人の思いを尊重し、希望に沿った過ごし方が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週一回理容師が来ており希望を聴いて散髪を実施している。季節に合わせた衣類でその人らしいおしゃれや身だしなみが出来るよう支援したり、自己決定できる方には本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プランターで栽培した野菜と一緒に収穫し、食事に添えたり準備や片づけ等協力し合っている。	利用者の希望を取り入れ、野菜をメインにした献立を委託業者に依頼している。利用者は状態に応じて配膳や下膳を行っている。行事食を始め、利用者と家族同伴の食事会なども行っており、好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や嚥下状態、食べる量に合わせた食事形態を工夫している。水分摂取も確保できるよう、その人に合った声掛けや支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施したり、必要に応じて協力歯科医院の医師に相談したり、歯科衛生士による口腔ケアも実施している。義歯の洗浄も毎日実施できている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導や声かけを実施している。紙パンツの使用についても、ご本人と相談しながら自己決定して頂いている。	各居室にカーテンで仕切られたトイレが設置されており、プライバシーが確保されている。利用者の排泄パターンを把握し、声かけによるトイレ誘導を行っている。また、利用者と相談しながら、尿取りパット等の取りやすい場所を確認するなど、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向がある場合は排便チェックを行い、主治医に相談しながら緩下剤を考慮したり十分な水分補給と運動を促している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日のバイタルチェックで体調を把握し、体調不良時には入浴を中止したり、清拭にて清潔を保っている。便汚染時には必要に応じて入浴を実施している。	原則は、週3回で大浴槽にて2人単位での入浴となっている。利用者の希望や状態により、個人浴や入浴回数、時間帯、同性介助等に臨機応変に対応している。事業所内での入浴が困難な場合は、同法人内施設での機械浴で入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターン(午睡も含めて)を把握しており、リズムを崩さないよう支援している。夜間1時間ごとの巡視により安心して睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的や副作用等を十分理解した上で状態を把握し、状態に変化があれば主治医に相談し指示を受けている。一回の服薬に対し三度の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割分担(清掃・水やり)や楽しみごと(将棋など)気分転換等の支援を実施し、その日の状態に応じた対応を実施している。嗜好品や楽しみごとなどは、意向を聴いたうえで配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の支援を得て外出している。ご入所者の希望を取り入れた野外活動には、ご家族にも参加して頂き、外食や自然にもふれあい楽しんでいただいている。戸外での散歩も入所者の希望を取り入れている。	利用者の希望により、敷地内や周辺の散歩、近くのスーパーや馴染みの店への外出支援を行っている。また、利用者や運営推進会議の意見を参考にして、普段には行けない場所での野外活動は、家族同伴で実施している。毎日、好みのコースを散歩されている利用者の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て、事業所にて管理している。自動販売機やパンの移動販売等ではご本人が支払いできるように支援している。ご本人がお金を所持している入所者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキ等は、ご本人に手渡している。年賀状を出したり、携帯電話を持参しているご入所者もいて、好きな時にご本人自ら電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度には十分留意し、温度調節や換気等を行っている。それと共に、季節感のある作品や飾り付けをしたりと楽しんでいただいている。	玄関前にはなすの鉢植え、共用空間には朝顔や風鈴、ひまわり等の季節感溢れる利用者の作品が掲示されている。食堂とリビングを挟んだ中庭は利用者や法人の他施設を利用されている方にとっても憩いの場となっている。広々とした共有空間は、室温や湿度を配慮し、心地よい居場所となるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングでは、日中自由に使用でき、ソファーには好きな場所に座って頂き、入所者同士談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ち込んで本人や家族の希望に沿った居室作りを心がけている。本人持ちの本棚に雑誌や好みの本を入れている入所者もいる。しかし、家族の希望により持ち込まない方もいる。	各居室入り口には暖簾があり、利用者が我が家として感じられるよう工夫している。居室内にはベッド、洗面台、トイレ、小ダンスが設置されている。テレビや冷蔵庫、お好みの備品や小物等の持ち込みは可能で、自由に配置されており、利用者独自の居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や車椅子が通りやすいようテーブルを配置したり、空間を確保し安全に過ごせるよう工夫を凝らしている。また、「一日の流れ」を居室の壁に貼り、自立を促している。		